

「オセロゲーム戦略理論」と5年後の市場観

Updated 2006.10.30

1. 「オセロゲーム戦略理論」

トリニティが事業戦略を策定する際の基本的な考え方をまとめたのが「オセロゲーム戦略理論」です。オセロゲームでは、ゲーム途中で多くのコマを取得しても最終的に勝利を収めるのはコーナーを取得した者であることが一般的です。反対にコーナーを取得することができれば、途中まで大半の陣地を相手方に取得されていても、逆転は比較的容易なだけでなく、むしろ途中まで劣勢に見えるぐらいの方が勝利に近いことが多々あります。

このようなオセロゲームのイメージは、将来の市場において鍵となる事業的なポイントを抑えることが最も効率の良い事業展開をもたらす、という事業戦略の性質をよく表現できると思います。

「オセロゲーム戦略理論」

- ① オセロゲームはコーナーを取ったものがゲームを制する。ゲーム途中における単純な取得数と、ゲームの優劣はほぼ無関係である。
- ② 将来のゲーム盤の大きさと形状は驚くほど変化する。このことがゲームをおもしろくしている。
- ③ 将来のゲーム盤の形状とコーナーを特定し、取得することが経営戦略の目的である。
- ④ 将来の様々なタイミングにおけるコーナー取得を検討することができるため、誰でも、どの業界でも、どのような技能を持つものでも、取得できる可能性のあるコーナーが存在する。反対に、将来のコーナーを取得する者は、現在全く異なる「業界」に存在するかも知れない。
- ⑤ コーナーを具体案件で取得することが好ましい。

2. 5年後の社会

このセクションは、トリニティの社会構造変化の予測をまとめました。前述、「オセロゲーム戦略理論」における「将来のゲーム盤」のイメージを表現しています。賛同いただくも、異なる意見をもたれるのもそれぞれの意見次第ですが、皆様はどうお考えになりますか？

- ▶ 情報伝達の正確性、低コスト化、スピード化、双方向性(あるいはネットワーク性)が著しく増加する。したがって「見かけよりも中身」、「イメージよりも真実」、「サービスよりも誠実」、「広告よりも実行」、「権威よりも公正」、「指示よりも対話」、が商業的に重要になる。
- ▶ 団塊の世代が大量に引退。加えて激しい少子化。日本はこの重大な人口動態の変化を世界で最も激しく、最も先に経験する。日本が選択する価値観が初めて世界をリードすることになる。
- ▶ モノとお金の価値が相対的に低下し人の価値が著しく高まる。お金の価値がもともと高い米国型資本主義に対して、日本型資本主義の特色が強まる。最も早く変化を経験するため、日本がより世界をリードしやすくなる。愛を中心とした変革であるため、沖縄など、人間関係が重視される地域が全体的な変革をリードしやすくなる。
- ▶ 長期間にわたって分断され続けてきた人間関係を豊かにするために、時間とお金が使われるようになる。人間関係が重視される過程で、「所有」から「利用」へ価値観がシフトする。
- ▶ 分離から統合へ。仕事の目標と人生の目標の統合、合理主義によって分断されていた人間関係が愛によって統合、競合関係から協力し合うほど豊かになる関係へ、交渉から提供へ。
- ▶ 人々の集団意識と価値観に大きな変化が見られ、スピリチュアリティが各業界で一般化する。
- ▶ 男性型社会から女性型社会への転換。合理主義が衰退し人間関係重視へ、ピラミッド型組織からコミュニケーション型組織へ、組織のための個から個のための組織へ、「資本家のための経営のための従業員」から「従業員のための経営のための資本家」へ、左脳から右脳へ、目に見えるものから目に見えないものを重視する価値観へ、物質主義から愛へ、西洋医学から統合医療へ、組織宗教から信仰へ、科学からスピリチュアリティへ、米国型資本主義から日本(沖縄)型共同社会へ、仕事と家庭の分離から人生の一体化へ、ストックホルダーからステイクホルダーへ。米国で女性大統領、日本で女性天皇が誕生。各国元首や主要企業のトップに女性が増加する。
- ▶ 労働集約的サービス業種において事業格差が開きやすい環境になる。
- ▶ お金はモノの価値を表すものではなく、人の気持ちを表すものである。消費者にとって選択肢の少ない市場では「やむを得ず」消費するケースが多かった。今後、消費者の選択肢がどんどん増加するに伴い、お金の本来の性質(すなわち消費者の気持ち)にしたがって消費される傾向が強まる。つまり、より「気持ち」を大事にするものが消費者(=お金)から受け入れられる。気持ちは愛に最も強く反応するため、愛の事業性が非常に顕在化しやすい環境になる。
- ▶ 愛の特質は真実であること、隠し事のないこと、オープンであること、政治のないこと、「サービス」のないこと、すなわちありのままであること。企業内外におけるこれらの性質が大きな事

業性を生みやすくなる。

- ▶ 愛はそれ自体が目的であり、手段になり得ない。したがって事業において目的(愛)と結果(収益)の分離(すなわち収益を目的としないこと)が常識化する。(現在までの常識は、「結果をもたらすためにはそれを目的としなければならない」というもの。)
- ▶ 事業収益＝愛の事業性の顕在化＞拡大再生産＋スピードの加速、が成り立つ市場へ。すなわち、拡大再生産とスピードによって事業収益を生み出す企業に資本が集約していた旧来型資本主義から、愛のある組織に資本が集約する、新(真)資本主義の成立へ。